

令和元年6月18日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04398

研究課題名(和文) 思春期の子どもとの相互信頼感を促進する段階的子育て支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of gradual childcare programs promoting mutual trust against puberty child

研究代表者

渡邊 賢二 (WATANABE, Kenji)

皇學館大学・教育学部・教授

研究者番号：50369568

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：思春期の子どもをもつ親を対象に、段階的な子育て支援プログラムを実施し、その効果を検討した。「思春期の子どもを心理を理解するプログラム」、「親の養育態度を振り返るプログラム」、「子どもとの良好な関係を促進するプログラム」、「子どもとの葛藤や衝突を解決するプログラム」を段階的に実施した。プログラム効果を検討するために、体験前と体験後に、参加者とその子どもに、母子相互信頼感尺度と養育スキル尺度を実施した結果、参加者とその子ども双方において、母子相互信頼感得点、養育スキル尺度得点が介入前より介入後の方が上昇していた。また各プログラム後に感想の記述を検討した結果、ほとんどポジティブな意見であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの子育て支援プログラムは、乳幼児の親や臨床的に問題を抱える親を対象に実施されてきており、また単発的なプログラムが多かったと思われる。本研究は、思春期の子どもをもつ親を対象に、思春期特有の心身の発達やコミュニケーションに着目し、思春期の子どもをもつ親を対象に、段階的に子育て支援プログラムを作成し、効果を測定している。思春期の子どもを心理や親子関係などの先行研究より、思春期の子どもを理解する、子どもとのコミュニケーションの取り方を習得するなどのプログラムを作成し、段階的に思春期の子どもについて、学習できたことが、これまでの研究にはなく、非常に独創的で意義があったと思われる。

研究成果の概要(英文)：This study investigated that gradual childcare programs were conducted against parents having puberty child. Gradual childcare programs were made up from 4step. 1step was program understanding psychology of puberty child. 2step was program reflecting parenting attitude. 3step was program promoting good relationship between parents and child. 4step was program solving conflict with child. Program was made up talking of the theme, exercise, discussion, feedback, reflecting. In order to measure effect gradual childcare programs, mother-child mutual trust scale and parenting skills scale were conducted against parents and the child in pre-test and post-test. As results, parents and the child promoted more post-test points than pre-test points on mother-child mutual trust scale and parenting skills scale. Parents wrote impression after each program, and they almost had positive opinion. From these, gradual childcare programs were effective.

研究分野：臨床心理学

キーワード：子育て支援 親 思春期 段階的 相互信頼感 養育態度

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

思春期の子育て支援は、不登校や発達障害などの臨床的な問題を抱えている子どもの親に対しては実施されてきているが、一般の子どもの親を対象とした子育て支援の実践と研究はあまり実施されていないのが現状である(平石, 2008)。思春期は友人関係の問題、学習上の困難さや進路決定の問題、性的成熟と異性への意識の高まり、アイデンティティ形成などが新たな課題となり、心理的に不安定になりやすい時期である。親子関係においても心理的自立をめぐる反抗や葛藤が生じやすくなり、親子関係の見直しや再調整が必要になる(Steinberg & Silk, 2002 など)。

思春期の子育ての困難さの背景として、親役割の不確かさ、家族における権威関係の変容、子どもに対する監督やモニタリングの適切さの変化などが指摘されている(Coleman, 1997)。これらの点を考慮すると、臨床的な問題をもった子どもの親と同様に、思春期の子どもをもつすべての親に対する子育て支援が必要であると考えられる。

これまでの子育て支援に関する研究において、親のエンパワメント(Roker & Coleman, 2001)、親の情緒的サポート、子育ての動機づけの向上、子育て上の課題解決のために必要な知識や技能の習得が重要であると指摘されている(平石, 2008)。また子育て支援プログラムの実践研究として、親子間の効果的なコミュニケーションの学習と問題行動の予防を目的とした親業訓練プログラム(Gordon, 1970)、養育者のエンパワメント、子育てについての知識の伝達やスキルアップ、仲間作りの促進を目的としたPsycho-Educational Program for Parenting(PEPP)(中釜, 2007)、アタッチメント理論と社会学習理論をベースとして、児童期から思春期の子どもと大人のコミュニケーション、親のペアレンティングに焦点をあてたChild-Adult Relationship Enhancement (CARE)(福丸, 2009)などが挙げられる。

上述のように、これまでの実践や研究では、親のエンパワメントや情緒的サポートの効果は見出されているが、乳幼児や臨床的な問題を抱えた親を対象とした研究や、子どもの年齢や発達段階の幅が広い実践や研究が多く見受けられる。しかし、思春期の子育ての困難さを考慮にいった思春期特有の子育て支援プログラムを考案、実施して、その効果の検証はなされていない。

これまで、研究代表者らは思春期の親子関係と子育て支援に関する研究において、思春期の子どもへの態度変容に対する母親の養育態度に焦点をあてて、母親の相互調整的な養育態度(養育スキル)の重要性を述べ、母親の養育スキル尺度を作成して、母親の養育スキルと子どもの心理的適応には関連があること(渡邊・平石, 2007)、母親の養育スキルが母子相互信頼感に影響を及ぼし、母子相互信頼感が子どもの心理的適応に影響を及ぼしていたという媒介変数モデルを検証したこと(渡邊・平石・信太, 2009)、この媒介変数モデルを縦断的(1年間隔3時点)に検討してきたことが挙げられる(渡邊・平石, 2010)。また、思春期の子どもをもつ親の自己理解を促進することを目的として、母親の養育スキル尺度や平石(2007)が作成した子どもの成長に対する認知・感情尺度、思春期の子育て態度尺度を用いた子育て支援プログラムや、親子の葛藤や衝突の事例を用いた子育て支援プログラムを実施して、効果の検証を行ってきた(渡邊, 2013)。しかし、この子育て支援プログラムは、1回きりのプログラムで、定期的に、また段階的には実施されていない。このような実践プログラムでは、子どもとの信頼感や親の養育態度が促進されるとは言いがたい。そこで、これまでの思春期の親子関係の基礎的な研究結果や子育て支援の実践的な研究をベースにして、思春期の子どもをもつ親を対象に、子どもとの相互信頼感と親の養育態度を促進するプログラムを開発する。そして開発した子育て支援プログラムを実践し、効果の検証を実施する。

### 2. 研究の目的

思春期の子どもをもつ親を対象として、子どもとの相互信頼感を促進する段階的な子育て支援プログラムを考案・実施し、そのプログラムの効果を検証することを目的とする。具体的には、親の子どもに対する相互信頼感と親の養育態度を促進させるため、図1に示したモデルを踏まえて、段階的な子育て支援プログラムを開発し、定期的にプログラムを実施する。プログラムの効果を測定するために、体験前、体験後の得点変化を検討する。また、プログラム参加者だけでなく、第3者評定として参加者の子どもに評定してもらい、段階的な子育て支援プログラムの効果を検討する。

### 3. 研究の方法

#### (1) プログラム参加者

中学生の子どもをもつ保護者 27 人(2017 年度 15 人, 2018 年度 12 人)

#### (2) 調査時期

2017 年 5 月~2018 年 2 月, 2018 年 5 月~2019 年 2 月

#### (3) 子育て支援プログラムの効果測定

渡邊・平石・信太(2009)が作成した母子相互信頼感尺度 12 項目, 6 段階評価

渡邊・平石(2013)が作成した養育スキル尺度 16 項目(理解・尊重スキル 10 項目, 道徳性スキル 6 項目), 6 段階評価

段階的子育て支援プログラム参加者とその子どもを対象に、上記の調査を実施した。  
(4) 段階的子育て支援プログラム

図1に示すように、STEP1「思春期の子ども心理を理解するプログラム」(思春期の子ども心理的変化・性的成熟・友人関係・学習上の問題・教師との関係など)、STEP2「親の養育態度を振り返るプログラム」(思春期の子育て態度尺度(平石, 2009)と母親の養育スキル尺度(渡邊・平石, 2007)を用いて親自身の養育態度を振り返る)、STEP3「子どもとの良好な関係を促進するプログラム」(子どもとの良好な関係性を構築・維持するための場面を設定してコミュニケーションのあり方を考える)、STEP4「子どもとの葛藤や衝突を解決するプログラム」(子どもとの衝突や葛藤などの場面を設定してコミュニケーションのあり方を考える)を段階的に実施した。各プログラムは、プログラム実施者の講話、演習、グループでの話し合いと発表、実施者のフィードバック、プログラムの振り返りで構成されており、90分間で実施された。

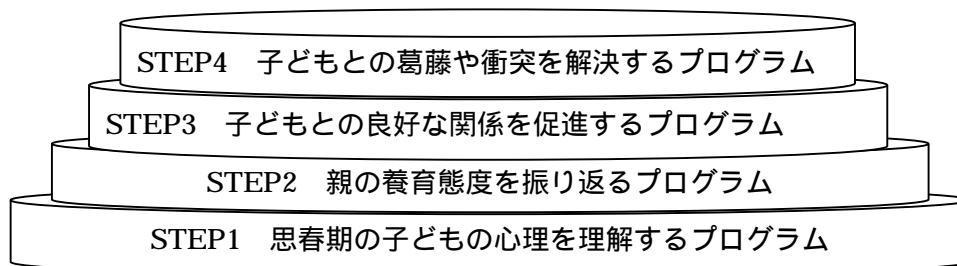


図1. 思春期の子どもとの相互信頼感を促進する段階的な子育て支援プログラムのモデル

#### 4. 研究の成果

プログラム参加者とその子どもに対して、プログラムの体験前と体験後に母子相互信頼感尺度と養育スキル尺度を実施した。また、各プログラム後に、参加者はプログラム体験の感想を記述した。その結果、参加者の体験前の母子相互信頼感平均値(SD)は、4.09(.70)、体験後は4.15(.51)、体験前の理解・尊重スキル平均値(SD)は、4.24(.65)、体験後は4.43(.60)、体験前の道徳性スキル平均値は、5.07(.58)、体験後は5.28(.46)であった。参加者の子どもの体験前の母子相互信頼感平均値(SD)は、4.12(.99)、体験後は4.89(.77)、体験前の理解・尊重スキル平均値(SD)は、4.28(.78)、体験後は5.00(.73)、体験前の道徳性スキル平均値は、5.07(.69)、体験後は5.64(.37)であった。参加者とその子どもの双方とも、母子相互信頼感と養育スキルの理解・尊重スキルと道徳性スキルにおいて、平均値の上昇が認められた。また、各プログラム体験後の感想においても、「プログラムに参加して、子どもの気持ちが理解できるようになった」、「思春期の子どもとの関わりが難しいことに改めて気づかされた」、「これまでの親子関係や子育てについて考える機会になった」、「これまでの子どもとの関わりが間違っていないと感じた」、「講座に参加して学習したことを、子育てにいかしていきたい」、「事例が自分の現状とあてはまっており、関わり方の難しさを学習できた」、「子どもの立場になって考える機会を得ることで、勉強になった」など、肯定的な意見がほとんどであった。

子育て支援プログラムへの参加人数が少数であることは否めないが、参加者にとっては、有用な子育て支援プログラムであったといえよう。今後は、思春期の子どもをもつ保護者の意見を聴取し、さらに細分化したプログラムを考案する予定である。また、短時間で実施できるプログラムやニーズにあったプログラムなどを考案し、実施していく。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

渡邊賢二 思春期の子どもをもつ母親の養育ストレスと心理的ストレス反応、養育態度との関連、皇學館大学教育学部学術研究論集、査読無、第1号、2019、137-147.

田玲玲・平石賢二・渡邊賢二 中学生の母子関係における親権威の概念の不一致と母子間葛藤、子どもの心理的適応との関連、発達心理学研究、査読有、28巻、2017、24-34.

[学会発表](計12件)

平石賢二・渡邊賢二・谷伊織 思春期の攻撃性に関する縦断的検討(1) - 発達の变化の類型と性差 - , 日本発達心理学会第30回大会, 2019

渡邊賢二・平石賢二・谷伊織 思春期の攻撃性に関する縦断的検討(2) - 心理的統制との関連 - , 日本発達心理学会第30回大会, 2019

渡邊賢二・平石賢二・谷伊織 青年期前期における母子間葛藤と養育態度の縦断的検討 - 交差遅延効果モデルによる検討 - , 日本教育心理学会第60回大会, 2018

Kenji Hiraishi, Kenji Watanabe, Iori Tani A longitudinal study on the relationship

among Japanese mother-child conflict, sense of mutual trust, and mother's psychological control in early adolescence, European Conference on Adolescent Psychology, 2018

平石賢二・渡邊賢二・谷伊織 思春期における母子間葛藤に関する縦断的検討(1) - 変化パターンの類型の観点から - , 日本発達心理学会第29回大会, 2018

渡邊賢二・平石賢二・谷伊織 思春期における母子間葛藤に関する縦断的検討(2) - 養育態度と変化パターンとの関連 - , 日本発達心理学会第29回大会, 2018

渡邊賢二・平石賢二 思春期の母子間葛藤と養育態度の変化 - 3時点の縦断調査より - , 日本教育心理学会第59回大会, 2017

渡邊賢二・平石賢二・谷伊織 思春期の母子間葛藤と養育態度の縦断的検討(1) - 時間差と性差に焦点をあてて - , 日本発達心理学会第28回大会, 2017

平石賢二・渡邊賢二・谷伊織 思春期の母子間葛藤と養育態度の縦断的検討(2) - クラスター分析による母子間葛藤の類型化, 日本発達心理学会第28回大会, 2017

平石賢二・渡邊賢二 児童期後期における養育態度と親子間葛藤(1) - 性差の視点から - , 日本教育心理学会第58回大会, 2016

渡邊賢二・平石賢二 児童期後期における養育態度と親子間葛藤(2) - 心理的ストレス反応との関連 - , 日本教育心理学会第58回大会, 2016

Kenji Hiraishi, Kenji Watanabe The relationship among Japanese mother-child conflict, sense of mutual trust, and child's well-being in early adolescence, The 31<sup>st</sup> International Congress of psychology, 2016

#### [図書](計2件)

渡邊賢二 母親の養育態度と母子間葛藤, 子どもの適応感との関連 - 学校移行期に焦点をあてて - 教育の探求と実践 皇學館大学教育学部 10周年記念論集, 皇學館大学出版, 2018, 273-283.

渡邊賢二 君の悩みに答えよう - 青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント - 7章: 親子関係「親が過保護で困っています」 福村出版, 2017, 106-107.

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名: 平石賢二

ローマ字氏名: HIRAISHI, Kenji

所属研究機関名: 名古屋大学

部局名: 教育発達科学研究科

職名: 教授

研究者番号(8桁): 80228767

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。